

夏はやっぱりかき氷!



2020.9.1 全校児童でかき氷を食べました



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第5号 —
2020.9.30

問 なぜ日本は太平洋戦争へ突入したのか?

*6年〇〇〇〇さんの研究レポートから

太平洋戦争が起こる前、日本は中国へ積極的に関与していました。1931年、中国東北部の満州を日本陸軍が制圧し、さらに南へ影響力を伸ばしていきます。そして、1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋にて日中両軍がぶつかり合います。これをきっかけに中国との全面戦争へ突入します。予想に反して戦争が長期化し、日本軍は物資が不足します。資源確保を目的として、東南アジアへ進出すると、アメリカが強く反発。日本への資源供給をストップし、経済的な締め付けを強めました。アメリカ以外にも中国からの全面撤退など、強固な条件を突き付けられた日本は、これを了承することができず、開戦することになりました。



戦後75年。節目のときを迎えている。沖繩戦、特攻隊、学徒報国隊、対馬丸、原爆、シベリア抑留…。

この夏、戦争の悲劇を経験した人たちの生の声が、戦争を知らない私たちにたくさん届けられた。

すでに戦後生まれが、人口の約85%を占めるといふ。「今、私が伝えないと…」

意を決してカメラの前に立ち、当時の惨状を語る高齢者の姿に、「戦争を起こしてはならない」

2020.9.30

バトン

校長 都筑祐一

*戦争は始めのころよ、終わりが難し

そんな思いを強くする暑い夏休みだった。

さて、8月9日。今年も長崎で平和記念式典が行われた。被爆者代表、89歳になる深堀さんが、平和への誓いを読み上げた。

『川には真っ黒になった人が折り重なっていました。生きているのか死んでいるのかもわかりません。時々、「水…、水…」と言う声が聞こえますが、助けることはできません。』

(…中略…) 一人でも多くの皆さんがつながつてくれることを願います。そして若い人たちが、この平和のバトンをしっかりと受け取り、走り続けてほしいと思います。』

しかし、この誓いに抗うかのようには、世界の終末時計は、過去最悪の「残り100秒」を指している。これは、米科学誌「原子力科学者会報」が今年1月に発表したもので、核兵器使用の危険性が高まっていることを意味している。

夏休み明け、廊下に掲示された1本の自由研究に目が留まった。6年、〇〇〇〇さんがまとめた「戦争のこわさ」というレポートだ。

戦争の番組が多い8月。なぜ日本が戦争をやったのか知りたくなったという。〇〇さんはこんな言葉で研究を結んだ。

「戦争は何百万の人が亡くなってしまふ。人が起こした犯罪だと思ふ。戦争がない平和な国になつてほしい」

子どもらしい純粋な思いに安堵すると共に、日本が戦争へ舵を切った理由を知ろうとする探究心に心から感心した。

昨年私は、長崎原爆資料館と平和公園を訪れた。現地に立つと、言葉にならない衝撃が体中に広がった。広島も沖繩ひめゆりの塔も、鹿児島知覧特攻平和会館も、みなそうだった。先人が残した貴重な戦争の資料館は、平和のバトンを受け取るため

にある。ぜひ、家族で訪れてほしい。

